

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析結果と

今後の取り組みについて

令和5年10月 小城市立晴田小学校

4月に行われた全国学力・学習状況調査（6年 国語科 算数科）の結果をお知らせします。また、生活習慣に関する意識調査について、数値が高かった項目と、低かった項目を挙げ、分析と今後の取り組みについてまとめました。

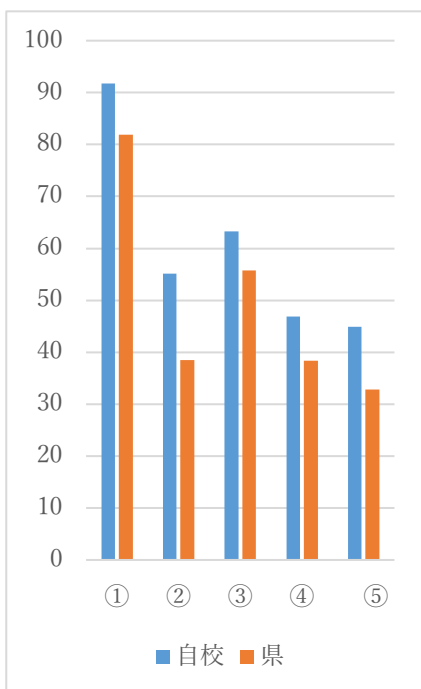
【全体の正答率について】

6年国語科：県平均とほぼ同じ。
6年算数科：県平均とほぼ同じ。

【生活習慣に関する「質問紙（意識）調査】

【数値が特に高かった項目】

番号	調査項目
1	朝食を毎日食べていますか。
2	毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。
3	毎日同じくらいの時刻に起きていますか。
4	読書は好きですか。
5	今住んでいる地域の行事に参加していますか。

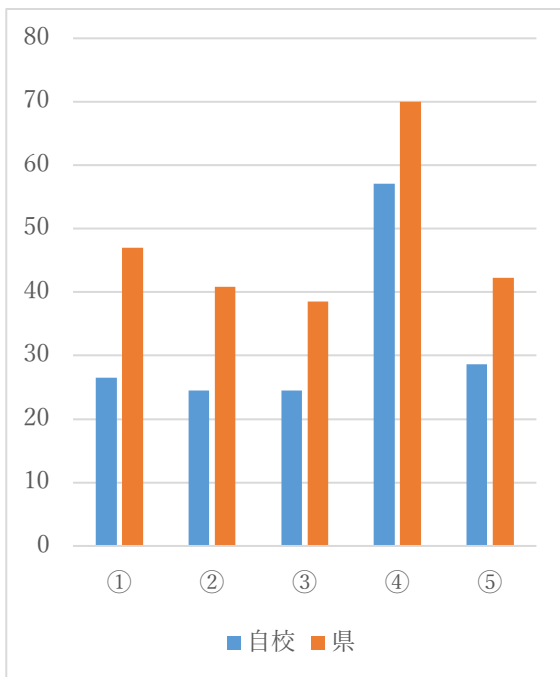


分析と取り組み

- ・「朝食を毎日食べていますか」の質問に対し、「どちらかといえばしている」を含めると100%になり、よい傾向が見られた。早寝・早起きについても数値が高く、基本的な生活習慣が身に付いている。〔1. 2. 3より〕
- ・朝読書や親子読書の推進、図書館祭り等の工夫もあり、読書が好きな児童が多い。今後も読書を推奨していきたい。〔4より〕
- ・地域の行事に参加する児童の割合が多いのは、青少年健全育成会が定期的に行っている土曜教室に参加する等、児童にとって地域行事が身近で、参加しやすいものになっているからだと考えられる。また、日頃より様々な学校の教育活動に対して、青少年健全育成会をはじめとする地域の方が非常に協力的であるためだと考えられる。学校と地域が連携・協力して子どもたちを育てるという意識が高く、今後ともその関係を深めていきたい。〔5より〕

【数値が特に低かった項目】

番号	調査項目
1	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
2	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思いますか。
3	英語の勉強は好きですか。
4	学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。
5	国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているかに着目していますか。



分析と取り組み

- ・“出番・役割・承認”の機会を意図的・計画的に設け、子どもの心に響くように、認めてほめる言葉を投げかける。〔1より〕
- ・外国語に触れることを肯定的に捉えている児童が少ない。低学年の頃から楽しく触れ合える環境をさらに整えていきたい。〔2、3より〕
- ・学習の中で ICT 機器を使用することに必要性を感じていない児童が多くいる。今後 ICT 機器を活用する場面を増やし、「役に立つ」「便利な道具だ」という認識をもてるようにしていく。〔4より〕
- ・物語全体を具体的にイメージして学習できていない児童が多いため、単元を貫く言語活動を選定し、ねらいを明確にして学習に取り組ませたい。〔5より〕

【6年生 国語科】

全体の概要

- ・ 全体的にみると県や全国平均とほぼ同じだった。
- ・ 観点別にみると、知識・技能については、県や全国平均とほぼ同じである。思考・判断・表現については、県平均を大きく下回っていた。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使うことができている。 ○ 前の設問がうまく活用できておらず、大問で捉えられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日頃の漢字の宿題が生きている。ミニテストやタブレット活用等の成果でもあると考えられる。今後も、熟語の意味と対応させ、文脈の中で正しく使えるようにしていく。辞書の活用も適宜取り入れる。 ○ 色々なパターンの問題に触れさせ、大問の捉え方を教えていく。また、問われていることを理解するために、大事な所に線やしるしを入れる等、全学年で取り組んでいく。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話し合いにおいて、友達の発言の理由として適切なものを選ぶ問題はよくできていた。日頃の「あいあいタイム」等の話し合い活動での交流の成果だと考えられる。 ○ 話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることには課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「あいあいタイム」等を継続し、話し合い活動に慣れ、習慣化していく。 ○ グループ活動や授業の振り返り等で、複数の考えを比較しまとめる練習や、キーワードを使ってまとめる練習を取り入れていく。

【6年生 算数科】

全体の概要

- ・ 全体的にみると県平均とほぼ同じだった。
- ・ 観点別にみると、知識・技能については、県や全国平均をやや下回っていた。思考・判断・表現については、県平均とほぼ同じだった。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○ 図形の意味や性質をよく理解している。 ○ 示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶことができない。百分率で表された割合について理解できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 図形の名称や定義についてはよく定着している。今後も、操作的活動等を取り入れながら、図形がもつ性質を理解させていく。 ○ 「基準量・比べられる量・割合」の意味理解を十分にするため、数直線等を使って関係性を捉えられるようにする。また、自分で図をかいて考えられるよう、低学年から系統的に指導していく。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ わり算の筆算について、図を基に、「たてる・かける・ひく・おろす」等各段階の商の意味を考えることができる。 ○ 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 筆算の方法について、「あいあいタイム」等を使って各段階の意味を考えさせ、伝え合っていることが意味理解に繋がっている。今後も継続していく。 ○ 記述式の問題全般で課題が見られるため、日頃から数やキーワードを使ってノートにまとめたり、活用問題等を解かせたりする必要がある。自分の考えを書いたり説明したり説明を聞いたりする中で、理解を深めさせていきたい。